

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 1月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	2276700214
法人名	有限会社 アートプロジェクト
事業所名	グループホーム 磐田かつらぎの家
所在地 (電話番号)	磐田市岩井2070-9 (0538-37-1008)

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年10月31日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年3月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 15 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	14.5 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	25 名	男性 8 名	女性 17 名
要介護1	8 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 82.3 歳	最低 61 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いわせ医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から5年目、広い駐車場を持つ3階建て3ユニットの建物であるが、ユニット内はカラフルな作品が所狭しと飾られて明るい。職員が利用者の特技や持てる力に配慮した作品を試作しては利用者の興味や意欲を引き出している。利用者は楽しんで取り組んでおり、作品群や並んだ鉢植え等にユニットそれぞれの特徴が良く顕われている。介護職員不足は頭の痛い問題であるが、現職員から意見を広く求め、話し合い、尊重し、変わることへの挑戦により離職を抑える職場作りを一考され、ユニットのカラーと同様にホームのカラーを打ち出すことを提案したい。そして利用者の楽しい今と家族の安心の今日をこれからも支え続けてゆくホームであることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善を指摘した項目のうち最も改善が顕著だったことは運営推進会議の開催である。地域委員からのアドバイスや協力を利用者の生活に活かしている。災害対策についても運営推進会議を通して地域の方に働きかけたり、緊急の場合に利用者の状態を把握する為の工夫をする等取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は評価の意義を理解し、評価を生かすべくリーダーが職員の話聞いて纏め、或いは全員で手分けして行なった等各ユニットで自己評価に取り組んだ。この取り組みにより職員の意識改革のきっかけになった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はほぼ3ヶ月に1回開催されている。地域委員が親身になって協力しており、報告だけに留まらずアイデアに溢れた提案により、緊急時の対応、お寺の開放、介護相談の看板設置等具体化している。災害時等のマニュアル作りも検討されている。今後運営推進会議をより活用するために近隣住民やボランティアグループにも呼びかけて多くの視点からの意見を収集し、利用者のクラブ活動の支援等更にサービスの向上に繋げていきたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの苦情等はあまり出ていないが、利用者と家族間の問題で相談されることはある。出された相談は速やかに家族と連携しながら対応している。運営推進会議や誕生会等に家族に声を掛けて出席を促している。家族はホームを自由に訪れており、コミュニケーションは良く取れている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、地域の行事には案内をいただいている。文化展に利用者の作品を多数出展しており、参観者に差し上げる小さな人形が沢山作られていた。お祭りにはホームの駐車場に山車が出て、踊りと休憩の場となり賑わっている。盆踊りにも参加して地域の方と交流している。高校生の実習も受け入れている。日常的には公園やお寺への散歩の折に地域の方々と挨拶や会話を楽しんでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりした介護と環境 楽しく過ごす第二の家」をホームの理念として掲げている。運営規程、契約書、重要事項説明書のそれぞれに地域との交流の中で暮らしていくことを支える方針を謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示して職員の意識付けを図っている。簡潔な理念は職員に良く浸透しており、実現に向けて様々な取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、地域の行事には案内をいただいている。文化展に利用者の作品を多数出展しており、参観者に差し上げる小さな人形が沢山作られていた。お祭りにはホームの駐車場に山車が出て、踊りと休憩の場となり賑わっている。盆踊りにも参加して地域の方と交流している。高校生の実習も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解し、評価を生かすべく各ユニットで自己評価に取り組んでいる。評価は意識改革のきっかけになっている		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はほぼ3ヶ月に1回開催されている。地域委員が親身になって協力しており、報告だけに留まらずアイデアに溢れた提案により、緊急時の対応、お寺の開放、介護相談の看板設置等具体化している。災害時等のマニュアル作りも検討されている。	○	運営推進会議をより活用するために近隣住民やボランティアグループにも呼びかけて多くの視点からの意見を収集し、利用者のクラブ活動の支援等サービスの向上に反映していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する事業者連絡会のグループホーム部会に参加し情報交換をしてサービスの向上に努めている。利用者の生活に関して市の担当係と連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が来訪の場合には健康状態や日頃の様子について説明をしている。ホームに訪問出来ない家族には月次報告書・金銭出納等送付し、体調変化等急を要する場合には電話連絡をしている。家族アンケートにはよく報告をしてくれると言う意見と最近報告がないとの意見があった。	○	利用者によって個々に相応しいサービスが提供されているが、公平なサービス提供がされることを前提に、要所は統一されるよう望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている	家族からの苦情等はあまり出ていないが、利用者と家族間の問題で相談されることはある。出された相談は速やかに家族と連携しながら対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新たに職員を採用する場合には一日研修で仕事の流れを見て貰いその上でホームや利用者との適性等判断し、採用後はリーダーが同行してホームの方式を教授している。また、レポート提出による報奨金制度もあり、労働環境の改善のひとつとなっている。	○	職員が替わることによる環境の変化を心配する家族の声がある。職員の離職には十分な引継と家族への十分な説明により利用者・家族の不安を最小限に抑えるよう配慮が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が受講を義務付けている研修がある。外部研修受講後はミーティングにて報告をし全職員での共有を図っている。毎月1回、2年間で24回にわたる介護食の調理実習を学んだ職員もあり、自己研鑽ではあるが、日程の調整等協力もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や介護支援専門員等一部職員には交流の機会があるが、一般の職員が他の事業所と交流する機会はない。	○	交流によるネットワーク作りは情報交換の場だけでなく職員の合同勉強会や行政への働きかけ等メリットが大きい。それぞれのホームが持つ特色はカラーが違っても参考になることも多く、交流の実現が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込みを受けてから利用者や家族からのアセスメントにより、これまでの暮らしの様子や身体の状態等を理解し、お試し時間を体験してもらうこともある。2週間程の間に職員が気付いた問題点等を出し合って作った介護計画を提示している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生経験豊かな利用者から故事やことわざ、料理等教えていただくことが多い。また、畑の作物を収穫する時の意欲的な姿や、外出の際にはたくさんの方の言葉や笑顔が見られる事が職員には何より嬉しい事である。「食事作りがうまくなったね」などの励ましも逆に職員の元気を引き出してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で表現できない利用者もいることから、訴えを受け止めるには目を見て会話をし、些細なことも見逃さないよう職員には常に注意を促している。お茶やコーヒーは本人の好みでいただいている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎週・毎月行われるミーティングにおいて利用者の状況変化や課題について話し合い、本人の希望や家族の意見を取り入れ、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングを行い日常生活の問題点や状況変化を把握し、サービス担当者会議を開いて現状に即した介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外出や外泊・家族の宿泊・通院介助など、その時々々の本人や家族の希望に合せた柔軟な支援が行われている。友人からスナックに誘われる利用者には健康状態等を勘案した上で楽しいひと時を過ごしていただくよう送り出している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の選択が出来る。協力医による受診や往診が受けられ、協力医や専門医へは通院介助も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は医療機関へ入院するとの方針にしている。現在、緊急時や重度化・終末期の対応に対するマニュアル等は無く、家族との話し合いや意思確認はされていない。	○	グループホームでの重度化や終末期の対応は年々重要になってきている。ホームとしてのマニュアルを確立し、利用者の急変時の対応や職員のメンタルケアを含めた研修を行い、全職員で共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を敬いながらも親しみを込めた言葉掛けや対応を心掛けている。記録は事務室に保管し、守秘義務に関して職員に徹底を期している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせて生活リズムに支障がない程度に食事を待つなど、利用者一人ひとりのペースに合わせた日常生活が送れるよう支援している。職員は利用者の意向を汲み取り、本人が望む過ごし方が出来るよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に応じ献立を変えたり、行事に特別メニューを用意したり、外食をしたり、食事を楽しむ為の工夫をしている。利用者が食器を拭いたり、片付けを手伝う姿も見られた。週1回検食日以外職員が利用者と同じ食卓を囲んで食事することは無いが、現在法人側と話し合いをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決められているが、仲の良い利用者同士と一緒に入浴をし背中を流し合うケースもあり、入浴を楽しむ支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特技や持てる力を活かして食事や洗濯物・植物の世話をしたり、絵や貼り絵・つるし雛や人形創作・折り紙・歌等を楽しんでいる。作品を地元の文化展に出品している事も利用者の自信や励みになっている。畑から収穫した芋づるで利用者の得意な芋づる料理をみんなで美味しくいただく等楽しみながら暮らしていく働きかけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在ユニットごとの外出は他の施設からの貸し出し車に頼っている為借りられない事もあり、利用者のその日の状況に合わせた外出が出来ない。日常は散歩や外気浴・趣味用品の買い物等、利用者の希望や健康状態・天候に配慮しながら外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより鍵を掛けない生活を実践している。外出傾向のある利用者には職員が行動や所在を把握する等、安全面に配慮しながら自由な暮らしが出来るよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施し、運営推進会議で消防署員からの意見を聞く等の取り組みをしている。地域の協力を会議で呼び掛けているが、現在は地域との協力体制は取れていない。	○	災害マニュアルを作成し自治会や町内会・近隣住民の協力を得て、家族や職員の不安を解消できることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材を職員が調理し、利用者一人ひとりの食事摂取量を記録に取り把握している。水分量の記録は無いが、職員は利用者に声を掛け、ポカリスエットを用意する等水分摂取が不足しないよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には利用者の写真や作品が飾られ、ユニットごとに特色のある明るく楽しい場になるよう配慮されている。利用者はそれぞれが好きな場所でくつろいでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品が持ち込まれ、居心地良く生活出来るように配慮されている。利用者は家族の写真や趣味の物、また小さな仏壇や遺影を飾り、その人らしい居室づくりをしている。居室で植物を育てている利用者もいる。		